

利休と秀吉が愛した天下茶屋

～達人たちの世界をたずねて～



1 天下茶屋駅

明治18年(1885)開業の南海電鉄の駅と、平成5年(1993)開業の地下鉄堺筋線の駅が向かい合っていて、1日で約12万人もの人々が利用しています。南海・天下茶屋駅は阪堺鉄道が難波～大和川(現在は廃駅)間を最初に開業したさいに設置されたもので非常に古い歴史を誇ります。

2 山女庵(やまめあん)

三重県出身の三池章義さんが、昭和56年(1981)に鳥獣料理(フランスではジビエと呼ばれる)のお店として始められました。春には山菜、夏には天然うなぎや鮎、秋には数種類のきのこ、冬には鹿やイノシシ…店主みずから山に入り、川を渡り、山小屋で獣たちをさばきます。普段は静かな語り口の三池さんですが、いったん山や川に入ると、俊敏な動きとなって自然と一体化されるとか。生き物たちの営みと深くかかわってこられた「山女庵」さんの思いに、耳を傾けてください。

4 聖天山正圓寺

地元では「聖天さん」と親しみをこめて呼ばれています。西成区と阿倍野区の境界にあり、春は桜見物で賑わいます。上町台地の西麓で、二上山からの原生林の流れは、この正圓寺まで続いているとか。元禄年間(1688～1704)に義道見明和尚がこの地に移転して中興しました。兼好法師の墓打ち石があったり、鳥居にまつわる先代住職の心打つ秘話など、魅力いっぱいのお寺です。元禄時代の石段を登ると、はるか大正区まで見渡せる素晴らしい眺望が待っています。

5 紀州街道

中世以降、大阪湾沿いの村落を結ぶ街道として整備されました。大坂城と住吉大社を結ぶ道路として拡幅され、豊臣秀吉がしばしば住吉大社に参詣したこともあって賑わいを増しました。江戸時代には紀州藩が参勤交代に利用するようになり、街道整備を行いました。

7 天下茶屋公園

地域住民の憩いの公園ですが、古代の豪族・阿倍氏の氏寺・阿倍寺の塔柱礎石がひっそりと安置されています。また是齋屋(ぜさいや)跡の石碑もあります。是齋屋は寛永年間(1624～1644)、住吉大社への参詣(住吉街道)で往来する人々に食傷の薬として「和中散」を売っていました。休息をとる人々に薬湯をサービスして、大繁盛したと古文書に記録されています。

8 八條工房

東映系の劇場(道頓堀東映パラスなど)で、映画看板の制作を引き受けてこられた工房です。先代・八條孝昌さんは、20歳の頃から手描きの映画看板ひとすじでした。時代の変化とともに映画館から手描き看板は消えつつありますが、いまでも長男の八條祥治さんが、父の意思を守ろうと頑張っておられます。手描き看板が完成するまでの制作話や、真の職人だった父・孝昌さんの思い出話などを尋ねて下さい。

10 関西芸術座

創立1957年。関西でも実力ナンバーワンといわれている劇団で、学校公演などで200本以上の自作作品を上演しています。大阪ガス提供の長寿テレビ番組「部長刑事シリーズ」(1958～2002)では関西芸術座の俳優さんたちは欠かせない存在でした。現在も100名近い劇団員が在籍しています。かつては阪和線美草園駅近くの木造の建物でしたが、岸里に移転してからは、2階建ての近代ビルになりました。

11 天神ノ森天満宮

応永年間(1394～1428)に京都・北野天満宮の分霊を奉祀したことに始まると思います。境内には樹齢650年以上というクスノキの大樹があって、室町末期の茶人・武野紹鴎が茶屋をつくり、風月を友に静かに暮らしたので「紹鴎(じょうおう)の森」とも呼ばれました。武野紹鴎の侘び茶は、弟子の千利休へと引き継がれて、歴史に名を残しました。また安産祈願に御利益のある「子安石」が置かれていて、豊臣秀吉が淀君が懐妊のときに安産祈願したと伝えられています。

天下茶屋は秀吉ゆかりの地として、歴史的にも有名なまちですが、意外と知られていないのが、人情が息づくまちだ、ということです。あられ一筋40数年の方から、今もなお、手作り映画看板にこだわり続ける達人など、その道の達人たちの語りも魅力のコースです。



12 阪堺電車「天神ノ森駅」

「チン電」の愛称で知られる阪堺電車の駅です。一駅ごとにガタゴトと運行されますが、スローライフな、人々の営みを感じられて、心が暖くなるようなローカル電車です。

3 天下茶屋あられ

滋賀県蒲生町お生まれの中島満男さんは、19才で大阪に出てこられてから西成の手焼きおかき屋で丁稚奉公の下積み時代を経て独立されました。備長炭を使い、春夏秋冬と手焼きのおかきを作って40数年! それでも「焼いても焼いても満足のいくものがつくれまへん。生涯おかきの勉強ですわ」とのこと。雨が少なく、おかき作りに最適な西成の町から、中島さんの職人魂にじっくりとふれてみてください。

6 安養寺

浄土宗知恩院派の一心寺の末寺として、元禄2年(1689)、貞誉清薫尼が建てた尼寺です。明治20年(1887)の失火と昭和20年(1945)の戦災で焼け落ちましたが、信徒さんのご協力と昭和34年(1959)に再建しました。近松門左衛門の「心中天の綱島」で有名な紙屋治兵衛の妻・おさんの墓や、狂歌師の佐藤魚丸の墓があります。悩める女性たちの心の相談役となって生涯を終えたおさんと、心ゆくまで語り合しましょう。

9 天下茶屋跡

豊臣秀吉が大坂城から住吉大社や堺へと往来すると、必ずこの界隈の茶店に立ち寄ったことから天下人の茶屋…「天下茶屋」と呼ばれるようになりました。昭和20年(1945)の戦災に遭うまでは、5000平方メートルにもおよぶ広大な屋敷・小兵衛屋敷がありました。現在は往時を物語る広場の土蔵と、350年生きつづけるクスノキの大樹があるだけですが、秀吉が訪れた場所に立って、天下人の栄枯盛衰の歴史ロマンに浸ってみて下さい。